

令和8年6月定例舞鶴市教育委員会会議録

開会日時 令和8年6月30日（火）午後1時57分～午後2時35分

場 所 市役所別館 4 1 3 会議室

出席委員 廣瀬教育長 稗田委員 田中委員 小川委員 相澤委員 吉岡委員

事務局職員 山下指導理事
松岡教育振興部長
倉田教育未来課学びの環境デザイン担当課長
日下部学校教育課長
守屋学校教育課指導担当課長
山内学校教育課主幹
藤原学校教育課学校生活相談係長
山本学校教育課主任
南教育総務課長
飯田教育総務課主幹
杉本教育総務課主事

傍 聴 1名

1 開 会

教育長 開会を宣告

2 令和8年5月定例教育委員会会議録 承認

教育長 会議録を会議に諮り、全員承認

3 諸報告

(1) 教育長報告

教育長から教育長の主な活動を報告

[質問・意見]

なし

(2) 各課報告

(教育未来課)

①行事予定について

(教育総務課)

① 行事予定について

② 後援の承認について（令和8年5月）

(学校教育課)

① 行事予定について

② 教育支援センター明日葉・学校生活相談係の5月の通級・相談等の状況について

[質問・意見]

(田中委員)

明日葉の活動状況について、高校へ進学した生徒への聞き取りで「3名」とあるが、これは対象者全員の人数か。

(守屋学校教育課指導担当課長)

その通りである。昨年度に明日葉へ通っていた生徒全員に近況確認を行った。今後予定している「チャレンジアウトドアライフ」という活動に、先輩として協力してもらうことも考えており、調整も兼ねて連絡を取っている。

(稗田委員)

義務教育を終えて次の段階へ進んだタイミングで、関わりがあった明日葉からフォローや繋がりがあることは非常に大切なことであると感じた。子どもたちも繋がりがあることによって頑張れると思う。当初順調であっても、環境の変化によって順調に來ていても躓くことはあるので、引き続き支援を続けていただけるとありがたい。

(守屋学校教育課指導担当課長)

明日葉では今年度から相談員を増員しており、卒業生が抱える不安に対してアプローチを行っている。また、卒業生が行事等の機会に訪れ、後輩の相談に乗るなどの好循環が見られるようになってきている。今後もこうした活動を丁寧に行っていきたい。

(教育長)

「チャレンジアウトドアライフ」について説明をお願いします。

(守屋学校教育課指導担当課長)

「チャレンジアウトドアライフ」は年に4回ほどの野外体験活動である。昨年度の実績としては、1回目に日帰りで旧学校施設を利用した釣り体験や星空観察を行い、2回目には明日葉の施設を利用した宿泊体験を行った。これらの段階を踏んだ後、9月末から10月頃にかけては、福井県小浜市の若狭少年自然の家にて、2泊3日のシーカヤックをはじめとする海での体験活動を実施した。また、お正月頃には、ここ数年恒例となっている餅つきを行うなどの行事を実施している。

4 議事

(教育長)

第10号議案、令和8年6月30日提出の「学校運営協議会委員の任命について」、事務局から説明をお願いします。

(山内学校教育課主幹)

学校運営協議会について、舞鶴市学校運営協議会規則第7条の規定に基づき、委員及び補欠の委員の任命をしたいので、舞鶴市教育委員会基本規則第9条第1項第12号の規定により委員会の議決を求めるもの。

[質問・意見]

なし

(教育長)

第10号議案を会議に諮り、全員異議無く承認。

5 その他

次回の定例教育委員会は、7月28日（火）午後2時から開催することを確認。

〔質問・意見〕

（相澤委員）

先日、他自治体において開催された中学校・高校の先生を対象とした研修会で、その自治体の中学校における特別支援学級卒業生のうち、今年度は83%、昨年度は90%が高等学校へ進学しているという話題が挙がっていた。私の方で調べてみると京都府では約75%位の生徒が高等学校へ進学している状況。特別支援学校の高等部への入学者が増えているというような状況がある中で、舞鶴市ではどうか。

このような状況があると、やはり高等学校との連携がないと引き継いでいけない。基本的に京都府の特別支援学級には、知的障害学級や自閉症・情緒障害学級の、知的の遅れがある子どもたちが95%くらい入級していることから、連携を考えていかなければならないと感じる。

高等学校の定員割れ等、いろいろな状況があって高校に入れるという状況だが、入ってからどうなるかという点については心配である。これまでは教科等をあわせた指導で学ばれているが、高校へ入ってからは評価を伴う学習が進むため、連携や移行支援を考えていかなければならない。

（守屋学校教育課指導担当課長）

細かな数字は持ち合わせていないため、確認して報告する。全ての生徒ではないが、高校へ入った後、なかなか続きにくい生徒がいるという状況については報告を受けている。

（相澤委員）

私立高校の無償化の影響もあってか、特別支援学校の小学部の入学生は増えており、そのまま高等部が増えていくはずのところ、高等学校へ進学している傾向が見られる。

（教育長）

私見になってしまうが、特別支援学級に入級するための教育相談のあり方そのものも検討していく必要があると感じる。本来は知的障害があることで特別支援学級に入級するものであるが、最近はそうでない子どもも含めて入級しているケースもあることも課題であると感じる。

（相澤委員）

どこを境界とするかについては、非常に難しい問題だと感じる。子どもの数が減っているけれど、特別支援学級や特別支援学校の児童生徒は増えている。特別支援学級を卒業した段階で、また高等学校で一般的な教育の枠組みへ入ってくるというようなことがある。関心を持っていただけたらと思う。

（稗田委員）

東京都北区の学校で発生した火事について、幸い子供たちをはじめ命を失う事態にはならず本当に安心した。しかし、非常階段に近い部屋でも、煙の回り方によっては避難経路として使用できなかったり、救助袋が設置されていても、状況次第では使用できずに窓から直接脱出を強いられるケースがあると知った。本市ではどのような状況であるか。

（南教育総務課長）

法令に基づき、消防設備点検を年2回、業者へ委託して行っている。各種設備の中には、経年劣化などで不具合が生じるものも出てくるため、不具合を検知した段階で、

修繕などの対策を都度講じている。また学校の管理職を中心に、日常点検を行っていただいております、その中で発覚したものについても都度修繕を行い対応している。

（稗田委員）

避難訓練はどの学校でも実施されているが、避難器具の使い方は1回やっただけでは手順を覚えられるものではないと思う。普段の訓練なら給食室や理科室から出火したと想定しがちだが、自校の教室の配置を考えて避難経路や訓練内容を想定し実施していくべきだと感じている。

（南教育総務課長）

避難器具については、従来の滑り台のように降りる「斜降式救助袋」から、螺旋状に滑り降りる「垂直式救助袋」への付け替えが進んでいる。今後は耐用年数等を踏まえ、より適切な設備を整えていく方針である。

（教育長）

先日開催された消防団の消防操作大会では、若浦中学校の生徒も参加して防災啓発活動に取り組んでいた。学校・地域全体で防災意識を高めていく必要性を感じた。

6 閉 会

教育長 閉会を宣告